



寺林 俊幸 議員
(政清会)

問

飯田町政も早いもので、3年7か月が過ぎようとしている。町長は、まちづくりに臨む基本姿勢について、「町政の主役は町民と考え、町民の皆さんとの対話を重ね、皆さんのまちづくりに寄せる思いや期待をしっかりと受け止め、その思いを皆さんとともに行動し実現する町政の展開に全力を尽くしてまいりたいと考えています」と表明された。常に現場に向き、町民との対話を大切にし、町政を執行されてきたことは、高く評価に値するものと考ええる。

先の選挙で挙げた5分野、23項目にわたる公約について、政策の達成状況をどのように捉えているか。また、少子高齢化が進展し、その対策が求められる一方、それに伴う社会保障費等の増加により地方の財政負担が増加し、自治体の運営は、さらに難しい時代となることが予想される。

そのような中、来期において引き続き町政を担う気持ちについて、所信を伺う。

問 今後の町政運営への考えは

答 町の発展に向けて不断の努力を続けていく

町長 平成27年4月、「子どもたちの未来のために・子どもたちを育ててみたいと思えるまちづくり」を政策のスローガンに掲げ、多くの町民の皆さんから温かいご支持をいただき、町政の舵取り役を担わせていただくことになった。「スピード感」、「説明責任」、「法令遵守」をモットーに、五つの基本政策を公約に掲げ、誠心誠意、一歩ずつ着実な推進に努めてきた。また、忠類村との合併10周年、開町120年、町制施行70年という記念すべき大きな節目を迎え、この時期に町長としての任に当たることができたことに感慨を深くした一方で、平成28年8月の相次ぐ台風による災害に見舞われ、被災された方々への支援や災害復旧に全身全霊で取り組んできた。その一方、本年2月韓国平昌で開催された冬季オリンピック競技大会において、本町出身の高木菜那さん、美帆さんが金メダル3個を含む5個のメダルを持ち帰っていた

いただき、町史に残る「凱旋パレード・町民報告会」を開催した。皆さんと喜びを分かち合えたことを通じて、幕別町の底知れぬ可能性を感じた。

公約に掲げた五つの分野について、(1)「農業を核に新たな可能性を開く産業のまちづくり」では、農業の生産振興、循環型農業の推進、6次産業化や農商工連携などによる高付加価値型産業の創設、既存企業の育成と起業支援による域内経済循環の促進、体験型・滞在型観光の推進に取り組んだ。(2)「ぬくもりと子どもの笑顔があふれるまちづくり」では、保健・福祉・介護の相談体制の充実、地域サロン活動への支援、障がい者や高齢者の就業機会の拡充、子ども医療費の負担軽減、子ども発達支援センターの拡充に取り組んだ。

(3)「安全で快適な生活環境のまちづくり」では、災害に備える環境づくり、定住対策により活力のある地域社会の維持・向上、高齢者が安心して暮らせる環境づくり、地域間交流の推進に取り組んだ。

(4)「未来を担う人材を育成するまちづくり」では、教育環境の整備、多様な教育機会の提供、保護者負担の軽減、文化・スポーツ活動の支援に取り組んだ。(5)「パートナーシップで創る活力あるまちづくり」では、住民参加のまちづくり、地域コミュニティの活性化の支援、組織力を生かした効率的な役場づくり、住民と一緒に考え行動する職員の育成、期限付き職員

の待遇向上に取り組んだ。町民の皆さんにお示しした公約については、概ね達成できたものと考えている。

今後の幕別町を次代にしっかりと引き継ぐ役割を果たすべく決意を固め、過日、連合後援会の再選出馬要請をお受けした。私の持つ力の限りを尽くし、今後とも、たゆむことなき挑戦を続け、幕別町に「生まれて良かった」、「住んで良かった」、「住み続けたい」と思ってもらえる町として発展し続けられるよう、不断の努力を続ける決意である。

幕別町に「生まれて良かった」、「住んで良かった」、「住み続けたい」と思ってもらえる町として発展し続けられるよう、不断の努力を続ける決意である。



議場で答弁する飯田町長